

<評価基準>
 A・・・当初の目的・目標を達成した。
 B・・・当初の目的・目標に向けて相当の進展があった。
 C・・・当初の目的・目標に向けて一部の進展に止まった。
 D・・・当初の目的・目標に向けた進展がなかった。

項目	重点施策	主な施策	担当課	取り組み内容										実績	実績評価	施策評価	最終評価			
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月					2月	3月	
倉吉市教育の創造	倉吉市教育振興基本計画の進捗よく管理	1 ・基本計画に基づく重点施策実施計画の策定 ・教育に関する事務の点検・評価の推進	教育総務	基本計画に基づく重点施策実施計画の策定	定例教育委員会へ実施計画提案					進捗状況チェック、中間評価	定例教育委員会へ進捗状況報告					審議会等による評価の実施 実施状況チェック、各課の自己評価	・教育行政の点検・評価を行うとともに、実施計画を作成し、10月に進捗状況を報告、3月に各課による自己評価を実施した。	A	A	各施策について、おおむね当初計画のとおり実施できた。 小中学校の適正配置については、学校教育審議会の答申をもとに、今後説明会を実施して市民の意見をお聞きし、教育委員会としての案を決定する。 学校施設の耐震化については、東日本大震災を受けて耐震化計画の見直しを行い、計画を前倒し実施することとした。
	倉吉市教育委員会の活性化	2 ・委員の活動強化及び情報発信	教育総務	・計画訪問・諸行事等への参加 ・市ホームページによる情報発信(リレーコラム第1回掲載)		・学校計画訪問(6/1 鴨川中)(6/10西郷小)	・学校計画訪問(7/6 久米中)(7/13上小鴨小) ・リレーコラム第2回掲載		・学校計画訪問(9/6 成徳小)	・リレーコラム第3回掲載	・学校計画訪問(10/5 社小)(10/12西中)(10/25河北小)	・学校計画訪問(11/2 高城小)		・リレーコラム第5回掲載	・リレーコラム第6回掲載	・リレーコラム第7回掲載	・学校計画訪問をはじめ、諸行事へ積極的に参加するとともに、委員による計7回のリレーコラムをホームページに掲載し、情報発信に努めた。	A		
	学校・学級の適正規模、校区のあり方についての検討	3 ・倉吉市学校教育審議会における校区のあり方検討	学校教育		学校教育審議会(5/16)		学校教育審議会(7/21)		学校教育審議会(9/26)		学校教育審議会(11/1)		学校教育審議会(1/18)	「倉吉市立小・中学校の適正配置について」答申(2/21)	学校教育審議会	・小中学校の適正配置について、学校教育審議会での審議を経て、答申を受けた。	A			
	学校教育施設・教育施設の整備運営	4 ・河北中学校移転事業 (新)学校施設耐震化計画見直し ・学校施設耐震化の実施(成徳小・久米中体育館耐震補強)	教育総務				既存校舎改修建築主体・校舎棟新築工事起工・入札公告	既存校舎改修建築主体・校舎棟新築工事起工・入札公告	入札・仮契約(議決後本契約)関連工事起工・入札・契約						完成予定H24.10月(債務負担行為)	校舎増築工事進捗率45% 校舎改修工事進捗率40% 計画とおり工事は進捗した。	A			
											計画見直し案作成	見直し案決定・公表			見直し案決定 公表(3/14)	財政計画と整合を図るため最終決定と公表は遅れたが、見直した計画に沿って24年度事業を前倒して実施できた。	A			
	学校給食センター調理業務の民間委託	5 学校給食センター調理業務の民間委託	給食センター	保護者PTA説明	パブリックコメント	債務負担行為6月議会	選定委員会	公募・説明	提案・選考・決定・契約					業者雇用等	業務引継	ほぼ計画どおりに進行した。関係者に十分説明をした。	A			
豊かな心とたくましく生きる力をもつ子どもの育成	2 学ぶ意欲と基礎学力の向上をめざす子どもの育成	学校教育	1 ・弾力的できめ細やかな指導を行うための体制づくり	加配教員配置 加配教職員研修		学校計画訪問での指導助言(6/1 鴨川中)(6/10西郷小)	学校計画訪問での指導助言(7/6 久米中)(7/13上小鴨小)		学校計画訪問での指導助言(9/6 成徳小)	学校計画訪問での指導助言(10/5 社小)(10/12西中)(10/25河北小)	学校評価による点検				学校評価による点検	・計画訪問を計画的に実施できた。 ・授業力向上のために学校に対しての働きかけが十分ではなかった。	B			
			2 ・学力向上推進の支援(算数・数学、国語ドリルステップ9の活用)	学校教育				活用状況についての状況把握(課題・改善点等各校へのアンケート等)			活用状況についての状況把握(課題・改善点等各校へのアンケート等)	成果と課題の共有と改善策についての検討(研究主任者会等)	中学校版の改訂着手	成果と課題の把握と改善策の提案	中学校版の改訂完成(国語、数学)	・中学校版を改訂することができた。 ・各学校の活用状況をしっかり把握し、更なる活用を促す必要がある。	B			
			3 ・授業改善、教職員の指導力の向上(授業研究会の指導助言)	学校教育		校内授業研究会の指導・支援(随時)教頭研修会	学校計画訪問での指導助言(6/1 鴨川中)(6/10西郷小)	学校計画訪問での指導助言(7/6 久米中)(7/13上小鴨小)	児童劇を活用した研修(8/22)	学校計画訪問での指導助言(9/6 成徳小)	学校計画訪問での指導助言(10/5 社小)(10/12西中)(10/25河北小)	生徒による授業評価の検討	学校計画訪問での指導助言(11/2 高城小)		授業づくりに対する指導助言 教務主任研修会	授業づくりに対する指導助言 英語科担当教員研修会	学力実態の把握と分析研修計画 ・計画訪問時に授業について協議ができた ・他の業務とのバランスも考え、計画的な指導助言の機会の設定が必要である。	B		

項目	重点施策	主な施策	担当課	取り組み内容										実績	実績評価	施策評価	最終評価			
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月					2月	3月	
3	心豊かな子どもの育成	1 ・道徳教育の充実(心のノート活用事例集の作成・活用)	学校教育		心のノートを活用した実践記録の提出を依頼							各学校での心のノート活用実践記録取りまとめ		心のノート活用事例集の作成・配布	→	・各学校からの事例を基にして活用事例集を作成	B	B	導入1年目のスクールソーシャルワーカーも有効活用でき始めた。不登校は少しずつ取組の成果が出ているが、結果として状況の改善は小幅に留まっている。問題行動は「集団での事象」があり数字を押し上げることになった。心を育てる取組を地道に積み重ねていくことが大切である。	
		2 ・「心の栄養 倉吉200選」(推薦書)の活用	学校教育	リスト配布 ・小中学校 ・市立図書館 ・保育園、幼稚園 毎月図書館の活動をとりまとめる	学校、館、園ごとにリスト活用開始(例) ・200選コーナー設置	司書の会で定期的に活用情報交換										・各学校で徐々にではあるが活用が図られているが、更なる働きかけが必要である。	B			
		3 ・不登校の解消、問題行動の未然防止、進路指導の充実(子ども支援センターの充実、スクールソーシャルワーカーの配置)	学校教育	・スクールソーシャルワーカー配置、学校訪問(年間を通じたスクールソーシャルワークの実施) ・不登校対応教員加配 ・心の教室相談員、子どもと親の相談員配置	・各校個別の指導計画作成 ・生徒指導についての学校計画訪問 ・要保護児童対策会議(随時)	→ 生徒指導対策推進会議		・県教委と不登校について協議(9/28西中)	・生徒指導についての学校計画訪問 ・中部支援センター移転について協議(10/17中部教育長会)	→ 生徒指導対策推進会議			・生徒指導対策推進会議		・小学校の不登校は、年々減少傾向で、過去5年間で一番少ない。 ・中学校の不登校は、人数的にはほぼ横ばい。 ・問題行動については過去5年間で一番多い。 ・学校訪問や関係機関等との連携、スクールソーシャルワーカーの配置等の施策については予定通り実施できた。	C				
4	たくましい体をつくる子どもの育成	1 ・学校体育、健康教育、学校保健の充実	学校教育		児童体育祭運動会 スポーツテスト	学校保健委員会 県中学総体予選	県中学総体 小学校中部水泳 喫煙防止教室			小学校中部陸上運動会	中学中部新人大会	性教育講座				学校保健委員会 性教育講演会	・各学校が喫煙防止教育及び性教育に積極的に取り組むことができた。	B	B	健康教育、学校保健、食の教育についての取組が充実しつつある。体力面でも弱点の補強が小学校で取り組まれている。より実質的な防災計画の策定、避難訓練の実施、危機管理マニュアルの策定を推進していくことが必要である。
		2 ・安全教育的徹底(危機管理マニュアル等の活用、通学路の点検)	学校教育	交通安全教室(各校) 通学路のとりまとめ	危機管理マニュアル等を活用した避難訓練の実施(各校) 春の交通安全運動 鳥取型防災教育実施(モデル校1, 単発メニュー校4)	危険箇所の確認と改善の要望(関係機関と一緒に)			秋の交通安全運動 ハチによる被害の防止について通知	熊鈴配布		年末の交通安全運動	→	→	・各学校が計画的に実施した。 ・東日本大震災を教訓に、計画を見直す学校が多い。	B				
		3 ・食の教育の推進(親子で学ぶ食の教室)	学校教育	親子で学ぶ食の教室希望調査	年間を通じて随時(～12月)	高城(6/30)	北谷(7/20) 灘手(7/11)			河北(9/28) 9/29 9/30 成徳(9/12) 上灘(9/8, 9/9) 小鴨(9/26) 社(9/6 9/7) 上北条(9/27)	明倫(10/3) 小鴨(10/4, 10/5) 山守(10/31)	西郷(11/11, 11/14) 関金(11/4)	上小鴨(12/13)			・全小学校1年生が実施。保護者からの評判もよく、取り組みも定着した。	A			

項目	重点施策	主な施策	担当課	取り組み内容									実績	実績評価	施策評価	最終評価			
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月							
				1月	2月	3月													
5	地域に学びまちに誇りと愛着をもつ子どもの育成	1	・自然や文化(文化財)芸術の体験的教育活動の推進	各学校が計画・実施図書館セット貸し出し(1学期)	校長会等で随時市の施設利用の働きかけ			図書館セット貸し出し(2学期)		舞台芸術体験事業(上小鴨小)(10/3) 青少年劇場(北谷小)(10/18) 青少年劇場人形劇(関金小)(10/26)		図書館セット貸し出し(3学期)		H24年度の芸術文化活動希望のとりまとめ(小学校4、中学校1 内定)	・計画どおり実施できた。	B	B	時間や経費の面で遠方での体験活動は困難であり、実施方法の工夫や近隣の資源の活用が必要になってきている。「私たちの倉吉」は改訂により使い易いものとなった。小学校での活用を働きかけていきたい。地域学校委員会は導入1年目ではあったが、十分機能し、小学校を中心に学校支援ボランティアは1000人を超え、教育を考える会にも2300人余りの参加者があった。中学校での活用が今後の課題である。	
		2	・郷土読本「私たちの倉吉」改訂				編集委員の決定と委嘱 第1回編集委員会	第2回編集委員会	編集作業(取材・原稿執筆)	編集委員の委嘱 第1回編集委員会	編集作業(取材・原稿執筆)	第2回編集委員会	第3回編集委員会	原稿の検討・最終チェック印刷	・取りかかりが遅くなった点は反省すべきであるが、改訂することができた。	B			
		3	・地域学校委員会の設立(学校応援団組織づくり)		地域学校委員の委嘱	第1回倉吉市地域学校推進協議会(6/12) 地域学校委員研修会(6/12) 学校公開(6/14,15) ボランティア募集	学校支援ボランティア募集開始 教育を考える会(7/1 小鴨)	各校地域学校委員会(一学期のまとめ)	〇〇地区「教育を考える会」計画	各地区「教育を考える会」実行委員長会(10/17) 教育を考える会(10/22上小鴨)(10/28関金)	〇〇地区「教育を考える会」開催	各校地域学校委員会(二学期のまとめ)	教育を考える会(1/28 明倫)	第2回倉吉市地域学校推進協議会(2/28)	各校地域学校委員会(三学期のまとめ)	・各校の地域学校委員会が立ち上がり、学校支援ボランティアの数も増えた。 ・13地区全てで「教育を考える会」を実施できた。			A
6	よりよい倉吉教育を目指して	1	・特別支援教育の充実(個別の指導計画の活用)		1年生訪問リーダー育成研修会(講師体調不良のため中止)	まなびの教室教育相談(6/3) リーダー育成研修会(6/23)	まなびの教室教育相談(7/1) リーダー育成研修会(7/14) ひらがな・計算調査	まなびの教室教育相談8/5) リーダー育成研修会(8/11)	まなびの教室教育相談(9/2) リーダー育成研修会(9/8) 市就学指導委員会(9/27) ひらがな・計算調査 特別支援中学校区研修会(9/29)	特別支援中学校区研修会(10/27) まなびの教室教育相談(10/7)	まなびの教室教育相談(11/4) 市就学指導委員会(11/21)	まなびの教室教育相談(12/2) 特別支援中学校区研修会(12/15) ひらがな・計算調査 市就学指導委員会(12/19)	まなびの教室教育相談(1/6) 特別支援中学校区研修会(1/12 1/19)	倉吉市子どもの発達支援研修会(2/5) まなびの教室教育相談追加(2/3)	ひらがな・計算調査 市就学指導委員会4回(持ち回り)(3/8)	リーダー研修会、校區別研修会、支援会議及び移行支援会議等を通して、特別支援教育の充実に努めた。	A	A	特別支援教育は行政がリードする形で教育内容充実のための仕組みづくりが進んだ。次の段階として、役割分担し、まかせるべきところはまかせていくことが必要である。小学校PTA連合会と校区再編についても協議することができた。就学援助事業については適切に執行できているが、厳しい経済情勢が続く中で対応や判断に苦慮する事例も増加しつつある。
		2	幼児教育、家庭教育の充実	学校教育	幼児教育研究会	中学PTA連合会研究大会(7/16)		小学PTA連合会人権同和教育研修会(9/17)	小学PTA連合会市教育委員との懇談会(10/21) 小学PTA連合会人権同和教育研修会 中学PTA連合会人権教育研修会(10/19)					幼児教育研究会	幼児教育研究会を開き、要綱の見直しを行い、今後この会がスムーズに流れるよう改善を図ったが、取り組みをもっと早くする必要あり。	B			
		3	・教育助成の充実(就学援助事業の周知と適切な執行)	学校教育	就学援助の委任状・口座等とりまとめ	修学旅行費等支払い	学用品費等支払い	特別支援教育就学奨励費支払い	特別支援教育就学奨励費支払い	学用品費等支払い 特別支援教育就学奨励費支払い	特別支援教育就学奨励費支払い	学用品費等支払い	学用品費等支払い	学用品費等支払い	就学援助審査会 特別支援教育就学奨励費支払い	就学援助審査会 特別支援教育就学奨励費支払い	就学援助事業が適切に執行できた。		

項目	重点施策	主な施策	担当課	取り組み内容										実績	実績評価	施策評価	最終評価							
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月					2月	3月					
豊かな心とたくましく生きる力をもつ子どもの育成	7	学校給食センターの栄養教諭等による食に関する指導	給食センター	・指導計画作成及び指導案提示	11回	29回	15回		19回	2回	6回	5回	7回	4回	食に関する指導を年間計画及び要望に応じて実施。講演等も含め指導総計240回。 小・中学校9年間を通じて専門的な指導を行うことにより、児童生徒の食に関する知識・関心が深まっている。 全小学校1年生とその保護者対象の「親子で学ぶ食の教室」も、家庭への啓発に繋がっており、保護者参加率も年々増加している。	A	A	「親子で学ぶ食の教室」においては保護者参加率も年々増加し、食に関する教育は充実しつつあると考えられる。 施設設備の改修は概ね計画どおり実施できた。						
				・全学級訪問指導		19回	9回		8回	13回	20回	14回		14回										
				・教科等の指導		1回	3回		10回	5回	3回	2回		1回										
				・食育教室	2回	6回			1回	1回	3回	1回	2回		1回									
				講演会 1回																				
		衛生管理の徹底、施設設備の計画的改修 調理室改修	給食センター	(通年)健康チェック・細菌検査・服装チェック 職員研修		夏休修理計画・メンテナンス計画		真空冷却機更新 夏休修理・メンテナンス		冬休修理計画・メンテナンス計画		冬休修理・メンテナンス	春休修理計画・メンテナンス		春休修理・メンテナンス	衛生管理計画に基づき、研修や定期及び日々の点検を行った。 施設設備の計画的改修を行った。	A	A						
あらゆる世代が豊かな心を育む環境づくりの推進	8	生涯学習の推進	生涯学習	学習内容・学習機会の充実(生涯学習講座)						・生涯学習講座(第1回・市内研修)	・生涯学習講座(第2・3回)	・生涯学習講座(第4・5回、市内研修)	・生涯学習講座(市内研修)			・生涯学習講座について、各回平均受講者数が前年度比23ポイント増など、多数の方の参加があった。ここ2年間好評な講座となっている。	A	A	・地域に縁のある人物を学習テーマに取り上げた講座は、継続受講者に新規受講者が加わり、年々魅力ある講座として定着している。 ・生涯学習情報の発信として、市と公民館のホームページの充実を図ったが、更に情報収集・発信の手段を広げる必要がある。 ・短大公開講座、鳥取大学との連携によるパソコン講習は専門性を活かした人気の講座となっている。 ・ものづくり道場では指導者の派遣・活用機会に繋げるよう、今後の取り組みが必要である。					
				生涯学習情報の発信(学習情報のデータベース化)	・短大公開講座 ・中部地区青少年のつどい ・大人のカー教室 ・人材銀行情報	・市スポーツ少年団交流大会結果 ・スポーツ教室のご案内	・剣道大会報告 ・市民体育大会水泳競技の部募集	・市民体育大会水泳競技の部報告 ・生涯学習講座募集		・市民体育大会募集 ・中部秋の手づくり教室		・市民体育大会募集 ・中部秋の手づくり教室		・ドッチビー ・雪遊び探検隊募集 ・冬の手づくりまつり	・市スポーツ少年団 ・市民体育大会						・市ホームページや市報を活用して生涯学習情報の発信を行った。 ・各地区公民館のホームページが充実し、地域に密着した特色ある情報発信ができるようになった。	B	A	
				鳥取大学・鳥取短期大学と連携した学習の提供	・ものづくり指導者派遣	・短大公開講座(第1回)	・短大(第2回) ・短大(第3回) ・ものづくり指導者養成講座	・短大(第4回) ・短大(第5回) ・鳥大(パソコン入門：休日)	・短大(第6回) ・短大(第7回) ・短大(第8回) ・鳥大(インターネット：休日) ・鳥大(ワート：休日) ・鳥大(デジカメ：平日) ・中部・夏の手づくり教室	・中部・秋の手づくりまつり	・伯耆しあわせの郷まつり ・鳥大(エセル休日)	・鳥大(パソコン入門：平日) ・鳥大(ワード：平日) ・ものづくり指導者養成講座	・鳥大(インターネット：平日) ・鳥大(エクセル：平日) ・中部・冬の手づくりまつり							公民館の今後のあり方への検討に向けて調整を行った。 ・全地区公民館のホームページを開設することができた。	・鳥取短期大学公開講座では、名簿登録者180人、のべ受講者500人の参加があった。 ・パソコン教室は、のべ143人参加。毎回定員を超える応募がある人気講座である。 ・中部ものづくり道場が新設され、手づくりまつり、指導者養成やものづくり教室を開催した。			
住民が身近に感じる環境整備と情報発信(ホームページの活用)	生涯学習	・公民館職員研修会 ・公民館巡回訪問 ・ウェブページの更新支援	・公民館主事研修会	・公民館職員館外研修	・公民館主事研修会	・中部地区公民館職員・社会教育主事研修会 ・公民館長研修 ・公民館主事研修会	・公民館主事研修会	・公民館計画訪問	・公民館管理委員長会	・公民館主事研修会	・公民館主事研修会	・公民館主事研修会	・公民館主事研修会	・公民館主事研修会	・公民館に積極的に出向き現状を把握することや、支援が十分にできなかった。 ・公民館のあり方検討会で主事の給与、今後の公民館のあり方について継続して協議を進めている。 ・館長研修会、管理委員長会で議会に対する問題点等を協議した。	B	B	・公民館職員の研修、管理運営上の問題・課題解決に向けた検討会を開催し課題解決に取り組み、解決の手順と方向性をまとめることができた。 ・公民館の巡回訪問など積極的に出向き公民館の現状把握と支援が十分にできなかった。 ・各公民館では積極的に中学生を取り込んだ活動を実施している。						
人づくり・地域づくりの推進(公民館研究指定事業)	生涯学習	・公民館研究指定事業の委託、運営支援				・中・高生等青少年の公民館事業(祭り、運動会等)への参加推進				・公民館まつり	・公民館研究大会				・地域課題の解決として公民館研究指定事業、公民館まつり、研究大会が開催された。 ・チラシの配布・ポスターの掲示、絵画作品募集など子育て十か条の普及啓発に努めた。				A	A				

項目	重点施策	主な施策	担当課	取り組み内容										実績	実績評価	施策評価	最終評価			
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月					2月	3月	
				取り組み内容																
10	青少年の健全育成・家庭教育の充実	1	関係機関等との連携による少年の非行防止	生涯学習	・高校生マナーアップさわやか運動	・第1回評議委員会 ・第1回運営委員会 ・街頭補導	・第1回倉吉市青少年育成協議会	・社会を明るくする運動 ・夏の青少年を見守る運動 ・第2回運営委員会 ・青少年育成者研修会		・高校生マナーアップさわやか運動 ・家庭の日絵画作品募集審査会 ・第3回運営委員会 ・街頭補導		・倉吉市青少年問題協議会 ・第4回運営委員会		「家庭の日」絵画作品巡回展 ・街頭補導	・第2回評議委員会 ・第5回運営委員会	・第2回倉吉市青少年育成協議会 ・第6回運営委員会	・少年補導センター、青少年育成鳥取県民会議及び倉吉市青少年育成協議会が共同で研修会を開くなど連携強化を図ることが出来た。「家庭の日」絵画作品募集では、倉吉の子育て十か条の啓発を兼ねて絵画を募集し、昨年比1.5倍、91点の募集があった。	A		・非行少年の検挙(補導)件数はここ数年検挙数は減少傾向にあるが、今年度はやや増加した。抑止力として、関係機関と連携した継続的取り組みが必要である。 ・中学生の地域活動への参加機会は充実してきたが、リーダー養成や組織化へは結びついてはいない。環境づくりが必要である。
		2	青少年の地域活動・体験活動の推進	生涯学習	・保護者説明会 ・西郷小放課後子ども教室開級 ・地区説明会 ・西郷小放課後子ども教室 ・各地区子どもいきいきプラン実施		・中部地区少年少女のつどい参加		・西郷小放課後子ども教室安全管理員研修会		・小学生ハンダグ教室 ・運営委員会		・雪遊び探検隊事業	・子ども会育成者研修会	・子ども会リーダー研修会 ・全国子ども会安全会加入説明会・意見交換会 ・運営委員会	・放課後子ども教室推進事業では、市内12地区で92回の体験事業と西郷小学校で197日の放課後子ども教室を開催、延べ約4,000人の青少年の参加があった。	A	A		
		3	青少年団体の活動支援(ジュニアリーダーの養成)	生涯学習		・現状把握	・各地区の推進方法協議、計画作成	・ジュニア・リーダー活動組織づくり ・指導者育成			・市子連総会			・成人式			・各地区で青少年特に中学生の公民館活動への参加が進んでおり、ジュニアリーダーの組織作りに取り組んだ。 ・成人式には多くの中学生の参加協力があった。 ・長年休止状況であった市子連総会を開催し今後の取り組みに繋げることができた。	B		
11	体育・スポーツの振興	1	スポーツ活動機会の充実	生涯学習	スポーツ教室開催 成徳・高城	スポーツ教室開催 上北条・灘手・小鴨・関金 ・第1回ニューススポーツ交流会、体力・運動能力調査	スポーツ教室開催 西郷・	スポーツ教室開催 北谷	スポーツ教室開催 上小鴨		・市民体育大会(倉吉マラソンほか17競技) ・くらし女子駅伝		・第2回ニューススポーツ交流会		・第11回加藤伸一少年野球教室開催	・ニューススポーツ交流会開催(2回)、各地区スポーツ教室開催(13地区)、市民体育大会等を実施した。 ・第11回加藤伸一少年野球教室を加藤杯として兼ねて開催した。	B		・市行事へ参画する体育指導委員(スポーツ推進委員)が固定化していたが、昨年度倉吉市で開催された中国地区体育指導委員研究集会を機に、市行事参加者が増加してきた。 ・体育指導委員(スポーツ推進委員)を中心にしたニューススポーツ交流会、各地区公民館でのスポーツ教室を実施し、市民が気軽に体育・スポーツを親しむ機会の提供に努めているが、参加数は横ばい状態であり、参加者の増加への努力、体育指導委員としてのスキルアップのための研修等が必要である。	
		2	スポーツ指導者の養成・団体の育成	生涯学習	・スポーツ少年団本部総会 交流大会(野球、バレーボール) ・体育指導委員協議会総会	・第1回体育協会常任理事会 ・H23体育協会理事会		・市民体育大会総務委員会 ・実行委員会	・県民スポーツ選手派遣(水泳競技)	・中部地区スポーツ少年団交流野球大会 ・中部駅伝選手派遣	・県民スポーツ選手派遣(秋季) ・日本海駅伝、きたろうカップ駅伝選手派遣	・米子〜鳥取間駅伝選手派遣	・スポーツ推進委員第1回実技研修会	・キッズバレーボール交流大会 ・スポーツ表彰選考委員会	・スポーツ表彰式 ・県民スポーツ選手派遣(冬季) ・体育指導委員第2回講習会 ・野球スポーツ少年団指導者等審判講習会	・体育協会事業として、市民体育大会、県民スポーツ、中部地区駅伝大会、スポーツ表彰式を実施した。 ・スポーツ少年団の育成として、交流大会(野球、バレーボール)の開催したが、指導者等研修会が実施できなかった。 ・実技研修会1回、各地区スポーツ教室の企画運営・指導をした。	B	B	・スポーツ少年団の育成について、活動の助成費が十分でないため、平成23年度は1,000円/団、増額した。 ・スポーツ情報提供のため、スポーツ少年団等スポーツ団体のデータベース化の取り組みが必要である。	
		3	体育施設の整備充実(陸上競技場の改修)	生涯学習	全天候舗装材選定会議(1) 4/25	全天候舗装材選定会議(2) 5/12 ポリウレタン系舗装材に決定	〔補正予算〕 ↓ 議会より附帯意見 利用者の身体への負担軽減コスト削減	全天候舗装材選定会議(3) 7/12 議員懇談会で全天候舗装材選定結果・予算額を報告	陸上競技場改修工事起工・入札公告	陸上競技場改修工事入札・仮契約(議決後本契約)	陸上競技場改修工事着工	市陸上競技協会要望書提出 ・水溝の撤去 ・正面部分に人工芝整備 ・補助練習場の整備 ・水路の改修	〔補正予算〕 減額補正	排水管、電気設備等、埋設物の布設替え、別工事(囲障)との調整等に不測の日数を要したため工期延長を行なう。	陸上競技場改修工事完了予定 6月15日まで工期延長 平成24年度当初予算に計上 ・補助競技場の整備 ・水路改修 ・観覧席の座席改修	陸上競技場整備事業で全天候舗装材による改修工事、囲障工事、駐車場工事を発注した。改修工事、駐車場工事は24年度に繰り越し実施する。	A		・陸上競技場整備事業で全天候舗装材による改修工事、囲障工事、駐車場工事を発注した。改修工事、駐車場工事は24年度に繰り越し実施する。 ※アンダーラインは、今後、努力を要する事項	

項目	重点施策	主な施策	担当課	取り組み内容									実績	実績評価	施策評価	最終評価			
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月							
				取り組み内容													1月	2月	3月
12	有形・無形の歴史的な資産の保存と活用	1 伝建地区内の建築基準法緩和に伴う建物調査	文化財	・建築基準法緩和に向けての取組協議（景観まちづくり課）	・建物調査協力依頼の地元説明会（5月下旬） ・鳥取県建築士事務所協会との打合せ（5月末） ・建物調査に伴う地元説明会実施（5月23日～31日）	・伝建審議会6月1日 ・鳥取県建築士事務所協会への説明会実施（6月17日）	・建物調査 ・伝建地区文化庁指導（修理・計画等） ・建物調査リスト作成	・建物調査中間報告 ・伝建修理文化庁指導8月4日・5日実施	・緩和条例の国交省中国整備局と協議9月29日（景観まちづくり課）	・建物調査契約10月3日着手 鳥取県建築士事務所協会	・建物調査完了12月16日建物調査報告書 ・伝建審議会12月20日 伝建地区の防災計画について協議（景観まちづくり課）	・建物調査報告から拡大地区の伝統的建造物の現状把握。 ・緩和にむけての資料作成	・伝建地区の建築基準法制限緩和に関する協議（景観まちづくり課） ・協議・資料作成は行うが、条例化は24年度に延期。 ・建築基準法制限緩和のための国交省中国整備局との協議（2月28日）	・伝建審議会3月16日 保存計画修景基準の修正	・5月建物調査協力依頼の地元説明会23日～31日 ・6月17日鳥取県建築士事務所協会説明、伝建審議会 ・8月4日文化庁現地指導 ・9月29日国交省中国整備局と協議 ・10月3日から12月16日まで建物調査委託 ・11月10日国交省中国整備局協議 ・12月20日防災計画について庁内協議（景観まちづくり課） ・2月28日国交省中国整備局協議 ・3月16日伝建審議会保存計画の修正	B	A	・伝建拡大に伴う伝建地区の建築基準法制限緩和のため建物調査は完了し、伝建地区の現状は把握できた。 ・新築修景に係る開口部の取り扱いにおいて、防災計画との調整により国交省との協議が遅れ条例改正を24年度に持ち越した。	
		2 茅林遺跡発掘調査（国道313号線改良工事）の記録保存	文化財	・中部総合事務所と受託契約	・土壌分析委託 ・石材産地分析委託 ・東前遺跡文化財協会発表	・遺跡図面整理 ・出土遺物整理 ・出土遺物実測	・土壌分析完了 ・産地分析12月まで延長	・県埋文センター資料収集	・遺構図版作成 遺物図版作成	・産地分析終了	遺物整理・復元終了	遺構図版作成 遺物写真撮影 写真点数確認	印刷発注2月14日 遺構図面終了脱稿 遺物図面終了脱稿 遺構・遺物原稿執筆	原稿執筆 報告書校正 ・報告書完成3月23日 ・事業実績報告	・4月中部総合事務所と受託契約 ・5月土壌分析委託・石材産地分析委託・倉吉文化財協会発表 ・6月～12月遺構図面整理トレース ・6月～2月遺物実測410点実測 ・1月～3月写真撮影 ・2月図版作成終了 ・2月遺物復元終了 ・12月～2月遺構原稿 ・1月～3月遺物原稿 ・2月14日印刷発注 ・2月校正・原稿脱稿 ・3月23日報告書刊行	A	A	・弥生時代の玉造工房跡の報告書の作成。遺構図、遺物実測、遺物復元等詳細な作業のため予定より日数がかかってしまったが、1月末に大方のめどが立ち、2月に1部脱稿。2・3月に本文原稿終了し、3月23日に報告書を刊行した。	
13	親しみ学ぶ機会の提供できる博物館	1 郷土の文化芸術、伝統文化を学べる場の提供	博物館	・郷土作家常設入替 ・民俗資料館展示入替	・倉吉市美術展覧会開催準備（作品搬入、審査会開催） ・倉吉市美術展開催の準備を行った。	・倉吉市美術展覧会開催（3～26日） ・考古常設入替 ・博物館講座（考古） ・博物館講座第1回を実施。	・郷土作家常設入替 ・民俗資料館常設入替 ・博物館講座（自然） ・美術常設替・博物館講座を実施。	・考古常設入替 ・博物館講座（美術） ・博物館講座「野外彫刻を見て歩き」を実施。	・民俗資料館常設入替 ・博物館講座（民俗） ・特別展絵馬展にあわせて民俗常設替と博物館講座を実施。	・博物館講座（民俗）	・鳥取県美術展覧会開催（7～23日） ・博物館講座（自然） ・考古常設入替	・民俗資料館常設入替 ・博物館講座（美術）	・郷土作家常設入替 ・博物館講座（考古）	・考古常設入替 ・博物館講座（美術）	・創作文華展開催準備（作品搬入・審査会開催） ・郷土作家常設入替 ・博物館講座（美術）	・特別展・企画展に関連した常設展示を実施することができた。地域の歴史文化を取り上げて実施する博物館講座を年10回開催した。	B	A	
		2 トリエンナーレ美術賞の推進と活用	博物館	・第8回菅橋彦大賞推薦委員の確定。 ・推薦委員を決定。	・第8回菅橋彦大賞指名作家の集約 ・推薦員による作家の指名を行う。	・第8回菅橋彦大賞作家選考会（12日） ・選考会にて指名作家を決定。	・第8回菅橋彦大賞指名作家への出品依頼 ・指名された作家に出品依頼を行う。	・彫刻のプロムナード作品解説 ・彫刻作品の解説を実施。							・第8回菅橋彦大賞指名作家の制作状況確認	・菅橋彦大賞の作家選考は計画どおり実施できた。倉吉：緑の彫刻賞受賞作品のうちプロムナード設置作品の解説を予定どおり実施した。	A	A	特別展等と関連付けた常設展示を実施することができた。トリエンナーレ事業（菅橋彦大賞と緑の彫刻賞作品解説）は計画どおり実施できた。「長谷寺の絵馬展」は、市民の関心が高く、地域に根ざした事業の必要性を改めて知ることができた。23年度入館者数40,255人 22年度入館者数48,993人
		3 特別展「長谷寺絵馬群」開催	博物館	・絵馬資料調査 ・絵馬資料の調査研究を実施。	・絵馬資料調査 ・絵馬資料の調査研究を実施。	・図録原稿準備 ・絵馬資料調査研究と図録解説の原稿準備を行う。	・ポスター・チラシ ・図録の作成準備 ・ポスター・チラシ・ポストカード類の作成準備を行う。	・ポスター・チラシの作成と配付 ・図録作成 ・ポスター・チラシを作成し配布する。	・図録完成 ・長谷寺絵馬展開幕（17日） ・講演会開催 ・展示解説1回 ・長谷寺現地ツアー ・特別展「長谷寺の絵馬群」を開催し、講演会・ガイドツアーを実施した。	・長谷寺絵馬展開催（23日まで） ・展示解説2回 ・長谷寺現地ツアー	・会期中の聞き取り調査集約	・願主等現地聞き取り調査	・願主等現地聞き取り調査	・現地聞き取り調査集約	・願主等現地聞き取り調査	・市民の関心も高く展覧会開幕前から奉納者に係る情報等も寄せられ、市民を巻きこんでの事業取り組みができた。入館者2,865人。	A	A	

項目	重点施策	主な施策	担当課	取り組み内容						取り組み内容						実績	実績評価	施策評価	最終評価
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
あらゆる世代が豊かな心を育む環境づくりの推進	14 豊かな心を育む図書館づくりの推進	1 読書活動の推進	図書館	ブックスタート絵本の読み聞かせ 6ヶ月 31人 1歳6ヶ月 26人	ブックスタート絵本の読み聞かせ 6ヶ月 34人 1歳6ヶ月 43人	ブックスタート絵本の読み聞かせ 6ヶ月 29人 1歳6ヶ月 25人	ブックスタート絵本の読み聞かせ 6ヶ月 36人 1歳6ヶ月 29人	ブックスタート絵本の読み聞かせ 6ヶ月 35人 1歳6ヶ月 43人	ブックスタート絵本の読み聞かせ 6ヶ月 32人 1歳6ヶ月 30人	ブックスタート絵本の読み聞かせ 6ヶ月 33人 1歳6ヶ月 27人	ブックスタート絵本の読み聞かせ 6ヶ月 46人 1歳6ヶ月 24人	ブックスタート絵本の読み聞かせ 6ヶ月 32人 1歳6ヶ月 39人	ブックスタート絵本の読み聞かせ 6ヶ月 28人 1歳6ヶ月 33人	ブックスタート絵本の読み聞かせ 6ヶ月 41人 1歳6ヶ月 30人	ブックスタート絵本の読み聞かせ 6ヶ月 40人 1歳6ヶ月 30人	ブックスタートについては参加者に好評であり満足できる。 6ヶ月参加者 417人 1才6ヶ月参加者 379人	A	B	ブックスタートについては評価できる。あきやまただし講演会は300人の来場者があり成功した。様々な展示コーナーを設けサービスの提供ができた。
				2 図書館資料の収集提供の充実	図書館	子ども読書週間展示 4月22日～30日 5,467人	子ども読書週間展示 5月1日～25日 18,055人	あきやまただし絵本展示 6月1日～29日 23,222人	お天気ひろば展示 7月8日～27日 18,771人	こわいお話展示 8月1日～24日 28,768人	書評に載った本展示 9月1日～15日 12,769人	宮西達也絵本展示 23,754人	谷ロジロー出版 作品展示17,882人	谷ロジロー出版 作品展示21,008人	3・11を忘れな い災害にそなえる 展示21,076人	健康関係出版 物展示25,540人	様々な展示を行い来館者へサービスの提供ができた。来館者は前年より約11,000人減少した。 平成22年度来館者数 305,560人 平成23年度来館者数 294,082人		